

用語の説明（五十音順）

【あ行】

・朝市

決まった日の早朝に一か所に集まり、持ち寄った野菜や魚介類等を売買する市（いち）のことをいいます。

・（仮称）あつぎ三川クーポン

三川合流点地区で実施する各種の利用促進計画（手ぶらパーベキュー、屋形船、観光漁（鮎のつかみ取り、鵜飼漁、^{としや}葦笠張り）、三川マルシェ等を推進していくために、本厚木駅周辺中心市街地や東町地区等の商業地、交通事業者との連携を図ることを目的としたクーポン券のことをいいます。

・厚木無線中継局

宮ヶ瀬ダムの水量調整のための情報通信塔として、小鮎川・中津川・相模川の合流地点に、平成9年に建設された。円筒型の塔で高さ50m、21mのところに展望台が設置され、360度の展望を楽しめることから、厚木パノラマタワーとも呼ばれる。建設後、落書きや焚き火などがひどくなり、平成16年に一般の立ち入りが制限された。

・鮎漁遊覧会

屋形船に乗船して鮎漁や鮎料理を楽しむ遊覧会のことをいいます。

【参考】

厚木市では、明治から昭和の時代に、厚木名産の鮎を目玉とした鮎漁遊覧会を開催し、横浜・東京方面からの客を接待する花柳界の充実を進めました。平塚駅から鮎漁客を人力車や馬車で厚木まで運び、屋形船に芸者を伴って鮎漁を楽しみながら平塚まで下る企画は人気を博し、しだいに多くの人々が厚木を訪れるようになりました。（明治32年（1899）厚木芸妓営業合資会社創業、明治34年（1901）相模馬車株式会社創立）

・一級河川

河川法に基づいて、特に重要な水系として、国土交通大臣が指定した河川のことをいい、全国の一級河川は109水系あります。神奈川県には多摩川、鶴見川及び相模川の3水系があります。

・ウォーターフロント

都市の中で、海等の水面に近接した地域。港湾、工場など産業用に利用されることが多いですが、近年、親水性を活かした住居・商業地域として開発される例が増えてきています。

・オープンカフェ

店舗スペースの一部を屋外形式にして、開放的な雰囲気の中でコーヒーや食事が楽しめるようにつくられた喫茶店又はレストランの意味ですが、この計画ではにぎわいを創出するために河川敷を利用した簡易型店舗の喫茶スペースとしています。

【か行】

・外来種（外来生物）

他地域から人為的に持ち込まれた生物のことです。

・河床

流水に接する川底の部分のことをいいます。

・河川環境

河川の自然環境（河川の水が流れている部分に生息・繁殖する水生動植物や流水を囲む水辺地に生息・繁殖する陸生動植物の多様な生態系）、河川と人との関わりにおける生活環境（流水の水質（低質を含む）、河川に係る水と緑の景観、河川空間のアメニティ等）とされています。

・河川管理施設（河川基盤施設）

ダム・水門・堤防・堰・護岸・床止め・樹林帯等、河川管理を目的として設置された施設のことです。河川管理者が設置及び管理します。

・河川管理者

河川は、公共に利用されるものであり、その保全や利用については、適正に行わなければなりません。この管理について、権限と義務を持つものが河川管理者です。一級河川については、国土交通大臣、二級河川については都道府県知事、準用河川については市町村長が管理しています。

・川の駅

川の近くにある既存施設を活用し、地域住民や来訪者が自由に利用できる交流拠点を意味します。「まち」と「川」、「上流」と「下流」の交流を図ると同時に、人々が川に近付き、川を親しむための公共的空間です。

・かわまちづくり支援制度

地域の資源や知恵を生かし、良好なまちと水辺が融合した空間形成の円滑な推進を図るために制定された国（国土交通省）の支援制度です。

・観光鵜縄漁

鵜縄漁とは、麻縄に鵜又はカラスの羽を付け、鮎を一定方向に導き集め、投網あるいはサテ網（竹で編んだ手網）等で漁獲する方法です。昭和30年代前半まで行われていましたが、現在は禁止されています。この漁を観光目的に行うことを観光鵜縄漁といいます。

・管理委託制度

地方公共団体が、公の施設を「普通地方公共団体の出資法人・公共団体・公共的団体のみ」に管理を委託する制度のことをいいます。公の施設の使用許可はできません（普通地方公共団体が行います）。条例で定めることにより、公の施設を使用する際に市民が支払う料金を、地方公共団体ではなく、管理受託者（指定管理者）の収入とすることができます。

・業務核都市

東京圏における大都市問題の解決を目的として、一極依存型の回避を目的に業務機能を柱とする諸機能の適正配置の受け皿となるべき都市として指定された都市のことです。多極分散型国土形成促進法（1988年制定）において制度化されました。

- ・ケータリングカー

車内に電気、水道、ガスの設備があり、移動して飲食を提供する車のことです。

- ・効果促進事業

国が地方公共団体に向け個別補助金を一つの交付金に原則一括して、地方公共団体にとって自由度が高く、創意工夫を生かせる総合的な交付金として社会資本整備総合交付金が創設され、基幹事業と一体となってその効果を一層高めるために必要な事務・事業を効果促進事業といいます。活力創出、水の安全・安心、市街地整備、地域住宅支援といった政策目的を実現するため、地方公共団体が作成した社会資本総合整備計画に基づき、目標実現のための基幹的な事業となります。

- ・洪水

台風や前線等によって流域に大雨が降った場合、川の水位が上昇し、川を流れる水の量が急激に増大します。このような現象を洪水といいます。一般には、川から水が溢れ、はん濫することを洪水と呼びますが、河川管理上ははん濫を伴わなくても洪水と呼びます。

- ・洪水調節（洪水調節施設）

一時的に洪水流量の一部分を貯めることにより、下流の河道に流れる流量を減少させることをいいます。洪水調節施設とはそのための施設のことで、ダムや遊水池等が該当します。

- ・高水敷

複断面の形をした河川で、常に水が流れる低水路より一段高い部分の敷地のことをいいます。平常時にはグラウンドや公園等様々な形で利用されていますが、大きな洪水の時には水に浸かります。

- ・小江戸

「江戸のように栄えた町」、「江戸時代を感じさせる町」といった意味合いで使われる都市の比喩的な表現です。

【さ行】

- ・再生

失われた水辺の自然を取り戻すことをいいます。

- ・サイン

鉄道駅や商業施設等の公共施設等に設置されている事業者等が定めた基準に沿って構築された案内表示に関する総称のことです。

- ・さがみ縦貫道路

神奈川県茅ヶ崎市西久保から相模原市緑区川尻を結ぶ、首都圏中央連絡自動車道の一部を構成する自動車専用道路です。この道路は、東名高速道路・第二東名高速道路・新湘南バイパス等と一体となって広域的・地域的交通の役割を担う路線です。

2010年2月27日には、さがみ縦貫道路で初めての供用区間となる海老名 JCT - 海老名 JC 間が開通しました。

- ・沢飛び石

河床に敷き詰めた石等が水の上に顔を出し、完全に繋がっていませんが、歩いてわたれるような状態に敷き詰めた石等のことをいいます。

- ・散策路

この計画では、高水敷及び低水敷の広場等の施設を結ぶ通路のことを総称して散策路としています。

- ・市場調査

商品やサービスを提供するために顧客のニーズを把握することで、マーケティングリサーチともいいます。定量調査としては調査票（アンケート）による方法等や、定性調査としてはグループインタビュー等があります。

- ・指定管理者制度

それまで地方公共団体やその外郭団体に限定していた公の施設の管理・運営を、株式会社をはじめとした営利企業・財団法人・NPO法人・市民グループ等法人その他の団体に包括的に代行させることができる（行政処分であり委託ではない）制度です。

- ・シロコロ（シロコロホルモン）

内臓肉（もつ）を焼く料理です。狭い意味では、小腸、大腸（しろ）の肉を、広い意味では、それらの他、胃（がつ）、肝臓（レバー）、心臓（ハツ）、腎臓（マヌ）、子宮（子袋）等を用います。かつては焼肉専門店や屋台等で供される料理でしたが、近年、味付けされたパック製品が流通し、家庭でも手軽に味わえるようになりました。

厚木市では昭和20年ごろから義豚業が盛んになり、岡田地区に豚肉の処理場が開設され新鮮な豚肉並びに内臓の流通が豊富かつ容易でありました。そんな背景の中で自然と豚ホルモン焼の店もたくさん出来るようになりました。そういった歴史背景もあり、現在でも厚木市には美味しい豚ホルモン焼を食べさせてくれるお店や販売しているお店がたくさんあります。もちろん現在でも処理場は厚木市食肉センター、平塚市食肉センター、相模原市食肉センターの3施設を統合した1日に約2,000頭の豚肉を処理できる関神奈川食肉センターが市内岡田地区に存在します。

- ・社会資本整備総合交付金

活力創出、水の安全・安心、市街地整備、地域住宅支援といった政策目的を実現するため、地方公共団体が作成した社会資本総合整備計画に基づき、目標実現のための基幹的な社会資本整備事業のほか、関連する社会資本整備やソフト事業を総合的・一体的に支援するものです。社会資本整備総合交付金は、国土交通省所管の地方公共団体向け個別補助金を一つの交付金に原則一括し、地方公共団体にとって自由度が高く、創意工夫を生かせる総合的な交付金として創設されたものです。

- ・水系

河川に関連する用語です。ある河川とそれに合流する他の河川・内水面（湖沼・池）、更には分岐する河川を含めた流路を部分的に共有する河川・湖沼全体を体系化した概念・分類をいいます。

- ・修景バラ

公園向きに研究・開発されたバラで、「ランドスケープローズ」又は「カラスケープローズ」とも呼ばれ、日本の造園修景協会等からサツキやツツジの奇植えに代わる花灌木がバラで出来ないかとの要望の中から開発された比較的新しい系統です。従来のバラの感覚からは想定できない多花で強健性を持っており、病気に強く、剪定等の手間もかかりません。樹形も枝が直立するタイプ、立ち上がって枝先が地表近く垂れるタイプ、地を這うよ

うに伸びるタイプ等様々です。世界的には「シュラプロース（やや高性の低木・半ツル性のバラ）」として分類され、ワイルドな花風景を創出しています。

日本では、京成バラ園芸株式会社が「修景バラ」とネーミングし、全国出荷を始めています。ただし、相模川等、大河川の緑化（河川景観向上策）として、修景バラを利用する取組は全国的に見ても初めての試みです。

・準用河川

一級河川及び二級河川以外の「法定外河川」のうち、市町村長が指定し管理する河川のことです。

・親水護岸

河川における親水施設のうち、護岸としての機能をもちつつ、人が水辺で楽しめるように配慮された護岸のことです。

・親水広場

河川における親水施設のうち、人が水辺で楽しめるように配慮された広場のことです。

・スパイラルアップ

マネジメントシステムの基本となるP O D Aを前提に「継続的に改善すること」又は「その仕組み」を指します。P l a n（計画）、D o（実施・実行）、C h e c k（点検・評価）、A c t（処置・改善）のP O D Aのサイクルを回していくとき、一周ごとにより高みに登っていくことで、らせんのようなイメージになります。これを「スパイラルアップ」と称しています。

・生態系（生態系ネットワーク）

ある空間に生きている生物（有機物）と、生物を取り巻く非生物的な環境（無機物）が相互に関係しあって、生命（エネルギー）の循環をつくりだしているシステムのことをいいます。ある空間とは、地球という巨大な空間であったり、森林、草原、湿原、湖、河川等のひとまとまりの空間であったりします。

・世代間交流

子どもから高齢者まで多様な人々が分け隔てなく交流することです。

・占用工作物

河川区域内に設置される河川管理施設以外の橋梁等の工作物のことです。

【た行】

・地域観光ネットワーク

ある特定の地域において、それぞれの特有な観光資源を情報や移動交通手段を提供して結びつけることをいいます。本計画地では、本厚木駅周辺中心市街地や東町地区のみならず、市内の主要な観光拠点との結び付きを強めていくことを目標とします。

・地域間交流（世代間交流人口）

ある特定の地域やテーマ・イベント等によって、異なる地域の人々や世代間で交流することをいいます。三川合流点地区では、多様な利用促進計画を通じて、多くの地域間交流や世代間交流がなされることを目標としています。

・地域通貨制度

法定通貨ではありませんが、ある目的や地域のコミュニティ内等で、法定貨幣と同等の

価値あるいは全く異なる価値があるものとして発行され使用される貨幣です。

・治水

洪水による氾濫から人々の生命と財産を守るため、ダムや、放水路、遊水地・調節池、築堤・護岸整備等を行うことを治水といいます。

・低水護岸

流水や雨、あるいは波の作用によって高水敷きが浸食されないよう、河岸にコンクリートブロックや自然石を貼ったものをいいます。

・低水敷

水面との高度差がほとんどありませんが、ふだんは水が流れていないところをいいます。

・低水路

河川において、常に水が流れる部分をいいます。

・堤外地

河川の兩岸の堤防にはさまれている平水時や洪水時に河川の流水が流れる区域をいいます（堤防の川側の部分）。

・堤内地

堤防によって保護されている区域をいいます（堤防によって洪水の氾濫から守られる地域）。

・てぶらパーベキュー

食材や器材を準備しなくても、その場に行けばパーベキューが楽しめる仕組みのことをいいます。

・床止め

河床の洗掘を防いで河川の勾配（上流から下流に向かっての川底の勾配）を安定させるため、川底にコンクリートブロックを敷き詰める等、河川を横断して設けられる施設です。根固めということもありますが、機能は同じです。床止めに落差がある場合、「落差工」と呼び、段差がないかあるいは極めて小さい場合、「帯工」と呼びます。

・都市公園（都市公園事業）

主に都市部にある整備された緑地や広場のことです。主に都市部の住民の利用を想定して整備されています。日本では都市公園法第2条及び都市計画法第11条第1項から第2項に該当する土地で、「散策路、広場、花壇、砂場、植物園、動物園、野外ステージ、プール、陳列館、売店、駐車場など」を備えた敷地と定義しています。

都市公園事業とは、広域的なレクリエーション活動や創造的文化活動、自然とのふれあい、コミュニティの形成等多様なニーズに対応するための公園、さらに大震災時の避難地、火災の延焼防止、救援活動の拠点等として機能する都市公園を整備する事業です。

・ドッグラン

犬のリードを離して自由に遊ばせることができ、不特定多数の犬が使用できる専門の場所のことをいいます。公園の場合は、ドッグパークと呼ぶことがあります。本来子犬から若犬の時期に犬同士の社会性を身に付けるために必要な場所とも言われています。

【な行】

・中州

川の流れの中に孤立した陸地のことです。洪水時に水没するものが中州で、水没せず植生におおわれているのを中島と呼びます。

【は行】

・ビオトープ

生物生息空間のことです。語源はギリシア語からの造語で「bio（いのち）+ topos（場所）」です。

本来は自然環境そのものがビオトープなのですが、生き物が住みにくい都市部等で、人間によって再構成された自然環境を特にビオトープということもあります。また、「生態系としてとらえることの可能な最小の地理的単位である。」とも定義され、河川の生態系は様々なビオトープの集合であるともいえます。

・防災調整池

開発に伴う流出増を一時的に貯留し、下流河川への流出増を抑制する施設のことをいいます。

・保全

自然を保護して、安全に保つことをいいます。

【や行】

・屋形船

基本的に、20～100名程度を収容できる座敷を備えた船です。最近では、和風の椅子席を用意したり、屋根にデッキを設けて外に出られるようにした船もあります。屋形船を営む業者を「船宿」と呼びます。主に貸切宴会の目的で運航され、料理と酒が提供されます。通常の宴会だけでなく、会議室として会議や研修に利用されたり、花火大会の観覧や結婚式等のイベントに利用されたりする等、利用形態も多彩です。少人数でも乗れる乗合船を運航している船宿もあります。

・^{よしず}葦簀張り

葦簀は、葦の茎を編んで作ったすだれ状のものです。立てかけて日除け、目隠し等に用います。葦簀張りは、葦簀で囲うことです。また、葦簀で囲ってある小屋のことです。

【ら行】

・利水

暮らしや産業に必要な生活用水や工業用水、農業用水等、水を有効に利用することを利水といいます。

・利便施設

日常生活に必要な種々の施設のことをいいます。具体的には、銀行、郵便局、病院、スーパーマーケット、商店街、飲食店、クリーニング店、コンビニエンスストアなどが挙げられます。本計画では、売店、駐車場、便所、水飲み等のことです。

・流域

ある川が、降水（雨水、雪融け水等）を集めつつ流れるその範囲・領域を指している地理用語です。

【わ行】

・ワンド（湾曲）

川の本流と繋がっていますが、河川構造物等に囲まれて池のようになっている地形のことです。

相模川厚木市水辺拠点創出基本計画

平成24年4月

発行：厚木市

編集：厚木市 河川みどり部 河川ふれあい課

〒243-8511 厚木市中町3丁目17番17号

電話 046-223-1511（代表）
